

事 項	りんごモニリア病防除剤「シプロジニル剤（ユニックス顆粒水和剤）」の利用上の注意		
ね ら い	芽出し10日後にモニリア病に対して予防効果と治療効果を併せ持つ薬剤を利用することを前提として芽出し当時の薬剤散布を省略する事例が増えている。芽出し10日後の基準薬剤「シプロジニル剤（ユニックス顆粒水和剤）」はモニリア病に対して予防、治療ともに優れた防除効果を示すが、同時防除となる腐らん病に対しては効果がない。よって、本剤は芽出し当時を省略する防除体系では使用しないことを指導徹底するための参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 防除実態</p> <p>芽出し当時の薬剤散布実施率は年々低下しており、平成12年には37.9%にまで低下した。芽出し当時の散布を省略する事例は今後とも増大する見通しにある。</p> <p>2 シプロジニル剤の作用特性</p> <p>(1) モニリア病</p> <p>ア 病原菌感染前の予防散布で優れた防除効果を示す。</p> <p>イ 病原菌感染後の発病初期における散布でも、病斑拡大、分生子形成に対して優れた治療効果を示す。</p> <p>ウ しかし、発病後期の散布では病斑拡大、分生子形成に対する治療効果は期待できない。</p> <p>(2) 腐らん病</p> <p>病原菌感染前の予防散布でも防除効果は全く期待できない。</p> <p>3 利用上の注意点</p> <p>(1) 芽出し10日後が第1回目の散布となる防除体系ではモニリア病に対する治療効果の有無が薬剤選択の基準となっており、シプロジニル剤はこの基準を満たしている。</p> <p>(2) しかし、本剤は同時防除の対象となる腐らん病に対して防除効果がないので、芽出し10日後散布が第1回目の散布となる防除体系には適さない。</p> <p>(3) 本剤における治療効果の活用については「芽出し当時から芽出し10日後の間が天候不順で、モニリア病の多発が懸念される場合、芽出し10日後散布に本剤のように治療効果のある薬剤を選択する。」に限定する。</p>		
期待される効果	適正な防除計画が立てられ、防除の失敗を防ぐことができる。		
利用上の注意事項	おうとうに対して薬害を発生させる懸念があるので、飛散しないようにする。		
担 当	青森県りんご試験場 病虫肥料部	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等	平成11～12年度 青森県りんご試験場試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 芽出し当時の防除実態 (平成12年 青森県経済連りんご薬剤散布経過調査書)

年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年
共防数	311	327	300	273	302	311
散布共防数	161	178	146	111	115	118
実施率(%)	51.8	54.4	47.7	40.7	38.1	37.9

表2 りんごモニリア病(葉腐れ)に対する予防効果 (平成12年 青森りんご施)

薬剤名	倍数	発病率(%)	
		花そう	果そう葉
シプロジニル剤	1,000	0	0
イミノクタジン酢酸塩剤	1,000	0	0
フルオリミド剤	1,000	3.5	0.7
無散布	—	58.7	18.0

注) 花そう全体の葉に薬剤を散布した後、子のう胞子を噴霧接種した。

表3 りんごモニリア病の発病初期及び発病後期の葉腐れに対する各薬剤の防除価 (平成11年 青森りんご試)

薬剤名	倍数	病斑拡大		分生子形成	
		発病初期	発病後期	発病初期	発病後期
シプロジニル剤	1,000	52	17	100	22
イミノクタジン酢酸塩剤	1,000	22	14	76	6
フルオリミド剤	1,000	0	0	8	8

注1) 発病初期は接種7日後に出現した病斑のうち長径が15mm未満のもの
 2) 発病後期は接種10日後に出現した病斑のうち長径が15mm以上のもの

表4 りんご腐らん病に対する防除効果 (平成12年 青森りんご試)

薬剤名	倍数	4月接種		6月接種	
		発病初期	発病後期	発病初期	発病後期
シプロジニル剤	1,000	20	5.0	20	90.0
チフォネートメチル剤	1,500	20	0	20	10.0
無散布	—	20	15.0	20	90.0

注) 剪定痕に薬剤を散布した後、柄胞子懸濁液を噴霧接種した。